

# 「口腔がん」知識学ぶ

## 歯科医療人育成協が都内で講演会

日本歯科医療人育成協会（土屋仁奈代表理事）は、「口腔がん撲滅に向けて——あなたの診る知識が命を救う」と題した講演会を東京都千代田区の秋葉原UDXで11日に開いた。講師は鶴見大学歯学部口腔顎顔面外科科学講座准教授・医局長の川口浩司氏と口腔がん検診・口腔健診システムのプロシエクトを展開する「お口の健診」（本社・東京都新宿区）社長の中谷泰志氏。ナビゲーターは同協会理事の土屋和子氏が務めた。



口腔がんの恐ろしさや診断の要点を説明する川口氏

川口氏は「歯科医療プロフェッションが人の尊厳を守る」と題し、プロフェッションの意味や口腔がんの恐ろしさ、早期発見の重要性、診断のポイントを解説した。「プロフェッションとは聖職者・医師・弁護士との3職種を指し、『人のために尽くすよう天地神明に誓う専門職』という意味を持つ」と踏まえた上で、「口腔がんは重症に進行すると、救命率は低下し、術後機能に障害を抱えて生きていくことになり、人としての尊厳を失う病気」と説明。「初期の段階で発見・治療すれば、約9割の患者が再発や転移なしに社会復帰できる。術後の生活を守る上でも、口腔がんの早期発見は極めて重要」と強調した。

そして「歯科医師会主催の口腔がん検診等により、日本でも口腔がんへの認識

は少しずつ高まりつつあるものの、先進国の中では唯一日本だけが増加傾向にあり、対策は遅れている」と指摘。歯科医療従事者として日々の臨床の中で「口腔内の異変に気付き、すぐに専門機関を紹介する」、「卒煙を促し、口腔がん患者を減らす」、「学校検診で舌側傾斜歯、鋭利な咬頭を見逃さずに対応する」といった意識が必要と語った。また、「肉眼で判断した白板症や扁平苔癬はあくまで臨床診断で病理組織診断でないの

で、中には重度の上皮性異形成も紛れている。この状態から基底膜が破られれば即座にがんであるため、白い角化病変やびらんは注意が必要」、「潰瘍の周囲に明らかかな硬結がなくても、がんの可能性がある」、「口底部や口蓋部に発生する腺系のがんの場合、特に粘膜の表面が正常なため、注意しなければならぬ」などの早期発見のための診断ポイントを説明した。

中谷氏は「口腔がん撲滅委員会の活動」と題し、罹患数や死亡数を含めた口腔がんの実情、歯科医院での口腔がん検診普及の必要性、米国の歯科医院で活用されている口腔内蛍光観察装置「VELscope Vx」等について話した。「日本のがん患者の死亡原因の中で口腔がんは第10位に位置し、死亡率は46.1%と比較的高い」と指摘。国際歯科連盟（FDI）は「あらゆる口腔医療専門職は口腔がんの早期発見と患者教育において重要な役割」と見解を示しているものの、日本では半年に一度の口腔健診を義務付けている米国に比べ、口腔がんの定期検診に関する仕組みが普及していないと強調した。そして「全国約7万軒の歯科医院と人間ドック、健康診断機関が口腔がんの早期発見の役割を果たせば、米国並みに死亡率19.1%にまで低減できる」とし、「VELscope Vx」の日本への導入展開などの口腔がん撲滅委員会の取り組みを説明した。

(第3種郵便物認可)

### 最新の歯科情報は LDAから



Leading Dentists Association

東京都千代田区三崎町2-15-2 JDNビル

TEL: 03(3234)2475 FAX: 03(3234)2477

www.LDA-online.com